

研修参加報告書

令和 3年 4月 28日

会 派 名 無会派
会派代表者 尾関 昭

(参加者： 尾関 昭)
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和 3年 4月 27 日 (火)
研修時間	10:00 ~ 13:00
研修場所	Web オンライン受講 (アットビジネスセンター池袋前別館・東京都豊島区)
研修内容	子ども・若者・ひとり親支援 現場最前線から見た課題 ～ With コロナ時代に必要な施策 ～ (講師： 辻 由起子)

研修参加報告書

①

年月日	令和 3年 4月 27 日 (火)
研修時間	10:00 ~ 13:00
研修場所	Web オンライン受講 (アットビジネスセンター池袋前別館・東京都豊島区)
研修内容	子ども・若者・ひとり親支援 現場最前線から見た課題 ～ With コロナ時代に必要な施策 ～
■目的 コロナ禍で、子ども・若者・ひとり親に何が起きているのか、現実と現状を最前線で活躍する民間の方から報告を交えて学び、行政として何が足りていないのか、どうすればいいのか、政策提言する議員として発信できるスキルを高める。	
■内容 講師 辻 由起子 氏 (社会福祉士・保育士) 大阪府子ども家庭サポーター (演目) 1. コロナが招いた福祉崩壊 2. 家庭支援のリアル 3. 「デジタルネイティブ世代」に必要な施策 4. 「支援」と「ニーズ」のミスマッチはどこからくるのか？ 5. 子ども・若者支援施策が急務な理由 6. 中間支援組織の活用 ・この1年程の出来事で急速に進んでいる若年者のホームレス化。特にシングルマザーを含む若年女性でDVなどでなく貧困化している事例が多い。 ・自営業でタワマンに住んでいたり外目に立派な生活をしているように見えていた方でも貯金が尽きてきた。プライドや日頃の生活があだとなって、誰にも相談できない、無論、行政の相談窓口には行かない層もいた。 ・行政の要請により子ども食堂を自粛している実態もある。⇒やるもやらないもどちらも適切な判断ではあるが、悪く作用している事も多い。 ・学校休校と在宅ワークが両立できない現実 (特にお子さんが小さい場合)。どんどん日に日にストレスが高まり、元々健全な精神状況であった方でも心が弱っていき病んでいく。 ・今後の政策として、市民協働 (推進) の担当課は、子育てをも取り込んでそちらにシフトしていくべきとの提言があった。 ヒント: 映画「弁当の日」(香川県滝宮小学校で始まった取り組み) ・行政の日々の業務の見直し (再検討) を。 【 使えない制度は変える 】 ⇒書類の中身が重い (取っ掛かり難い) と停滞するという事実。	

e x. 行政用語を改めるべき。若い市民（シングルマザー含む）には「配偶者」という言葉すら解らない。今の時代は「パートナー」と表現すべき。

e x. 大阪市生野区の「やさしい日本語」対応

画像で提示。今までの行政は説明を言葉だけでやりきろうとしていた。

⇒フードバンクは行政としては場所を貸すだけに。運用は民間に任せるべき。

お米を配ったりする一例。ロータリークラブやライオンズクラブはコロナ禍の影響で事業（イベント）が出来ていないので予算が余っている可能性大。お米券の配布を望む。

・デジタルネイティブ世代への施策 【 困り事を言語化する 】

○いまの若い子たち…住民票って何？ 郵便って何？ 赤いポストには何を入れるのか。（アマゾン？宅急便？） 切手って何？ どこで売っているものなのか。

○何かハガキや封筒は来るんだけど、これって詐欺なの？ 仮に払うにしてもどうやって払えばいいのか解らない。⇒滞納

（学校に行っていないままに大人になった人・親になった人が沢山いる）

○敷金・礼金ゼロ、家具家電ナシの物件に入る若者達。

⇒仕事がなく退去⇒補修費などが払えない⇒ブラックリスト⇒次回以降、部屋が借りられない状況に。

○持続化給付金詐欺の一例、返還義務→使ってしまったあとだから返せるはずもない。

○役所とのヒアリング 行政側「大丈夫だと言っていました」

本人「大丈夫ではない」→お互いにコミュニケーションが取れていない。

行政のほうも、聞き出す力が足りない。（テクニック不足）

○福祉スルーの現状、Twitter で知り合ったほうが優先で行政の救済には目が向かない。偽造身分証明書の利用の常態化。⇒名義貸しの危険等、学校で教えていない SNS に掛かるトラブルが多数発生している。（教育の重要性）

・新たな居住福祉政策

○公的賃貸住宅の「目的外使用」（空き住戸の利活用）自立支援の一助に。

○居住支援法人への支援（+見守り，生活相談，生活指導，就労支援…）

■所感

貧困に陥るタイミングが、育った環境もさることながら、このコロナ禍でまた多様化しており、かつデジタルネイティブ世代が成人し始めたいま、行政の対応が全く追いついていない実例を多々知ることが出来ました。行政が考えた枠組みからは常に洩れてしまう・溢れてしまう市民はいるので、常に新たな次の一手で救済と自立への後押しを素早くやっていく事が大切で、またその実現のために民間団体のスピーディーさを借りて、更に着実な成果を出していく事が重要だと感じました。